

⑫ 公開特許公報(A) 平4-171685

⑤ Int. Cl.⁵H 01 R 13/639
13/64

識別記号

A

庁内整理番号

9173-5E
8425-5E

⑬ 公開 平成4年(1992)6月18日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 コネクタ

⑮ 特 願 平2-297493

⑯ 出 願 平2(1990)11月2日

⑰ 発 明 者 脇 阪 順 雄 東京都港区芝5丁目7番15号 日本電気オフィスシステム株式会社内

⑱ 出 願 人 日本電気オフィスシステム株式会社 東京都港区芝5丁目7番15号

⑲ 代 理 人 弁理士 内 原 晋

明 細 書

発 明 の 名 称

コネクタ

特 許 請 求 の 範 囲

コネクタケースと、前記コネクタケースに回転自在に結合し、先端部に磁石を固定し、中央部に接点を固定した回転リングとを具備することを特徴とするコネクタ。

発 明 の 詳 細 な 説 明

〔産業上の利用分野〕

本発明はコネクタに関する。

〔従来の技術〕

従来のコネクタについて図面を参照して説明する。

第2図は従来のコネクタの一例を示す。このコネクタはコネクタケース1と接点4とガイド5とから構成されている。

このコネクタを接続するには、ガイドによって

コネクタを向きを合わせ接続する。

〔発明が解決しようとする課題〕

上述した従来のコネクタは、操作者がガイドによって向きを考えなくてはならず、また、誤って接続しようとするにより、接点やガイドを破損することがあった。

〔課題を解決するための手段〕

本発明のコネクタは、コネクタケースと、前記コネクタケースに回転自在に結合し、先端部に磁石を固定し、中央部に接点を固定した回転リングとを具備することを特徴とする。

〔実施例〕

次に本発明について図面を参照して説明する。

第1図は本発明の一実施例の構成図である。このコネクタは、コネクタケース1と、コネクタケース1に回転自在に結合し、先端部に磁石3を固定し、中央部に接点4を固定した回転リング2とから構成されている。

次にこのコネクタの接続方法について説明する。操作者はこの2つのコネクタを向かい合わせに近

づけると、磁力により回転リング2が回転し、操作者が向きを考えることなく接続を完了する。

〔発明の効果〕

以上説明したように本発明は、回転リングと磁石を有することにより、コネクタを接続する際、コネクタの向きを考える必要がなく、また、誤った操作によりコネクタを破壊する心配がないため、短時間に正確に、また手軽にコネクタを接続できるという効果を奏する。

図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の構成図、第2図は従来例の構成図である。

1…コネクタケース、2…回転リング、3…磁石、4…接点。

代理人 弁理士 内原 晋

- 3 -

